

## 2015 年度（平成 27 年度）事業計画

基本方針：くまもと障害者労働センターの目指すもの

- (1) 職員と障害者の関係にみられる「指導する・される」関係ではなく、誰もがそれぞれの力を出し合い助け合って働くことのできる関係を築き、障害のあるなしだけでなく様々な困難を抱える人も含め、誰もが共に働くことができる場として社会的事業所の可能性を拓いていきます。
- (2) 働く現場を単に生きがいや作業体験の場に終わらせることなく、収益性のある事業を通し、労働権の確保や一定の所得保障を進めていきます。
- (3) 格差が広がり競争が激しくなり、働く場のない人が増える今の社会が共に生きる社会に向かい進んでいるとは思えません。私たちは、労働を通し差別がなくなっていく共生社会をめざしていきます。

### 運営の目標

2015 年度の目標として、私たちが取り組みたいことを列挙すると下記のようになります。

#### (1) 情報の共有と仕事の見直し

2011 年度より多機能型事業所（就労継続支援 B 型と生活介護）へと移行をして 4 年となります。この 4 年間、本人の希望する部署に配置転換をしながら、専門家（プロ）を目指し仕事を続けてきました。多くの人が、自分の仕事に誇りを持ち、ゆっくりではありますが地道に仕事をおぼえ自信をつけています。その成果として、売り上げも順調に伸び、給料も時給で 350 円（月平均、約 40,000 円）、また、賞与を年に 2 回（二月分）支払うことができるようになりました。しかし、現状に満足することはできません。センターで働いて得た給料と年金を併せ、地域の中で自立した生活ができるまでの所得保障とはなっていません。

この 4 年間で、多くの人がセンターで働き始めました。部署による出勤時間の違いやヘルパーや公共交通機関の時間などで、みんなで情報を共有するはずの朝のミーティングに参加できない人が増えてきました。また、多くの人が働くようになり、人に合わせて仕事をつくっていくという私たちが大切にしてきたことも、仕事に人を合わせるという状況となりつつあります。

2015 年度は、情報共有として全体の朝のミーティングから各部署でのミーティングへと変更し、すべての人に情報が共有できるようにしていきます。そして、センターの全員で話し合う全体ミーティング（センターのもっとも大切にしている時間）を、月に 1 回から月 2 回に定例化していきます。また、仕事についても、各部署で働く各個人の障害や生活状況などから、再度仕事の組み立てを考え、人に合わせた仕事づくりを実践していきます。

## (2) 共に生きる社会づくりとそよ風のように街に出よう

2014年度より、おれんじ村 I n c. (相談支援事業) と共生ホーム元気 (住宅提供と自立生活の体験の場) が新たにスタートしました。

おれんじ村 I n c. では、多くの地域に住む障害当事者と家族からの相談を受け、地域の抱える課題を知ることができました。(重度心身障害児の使えるサービスがほとんどない、病院の受診でガイドヘルパーを使うため買物などの外出には使用できていない、いろいろ行きたい場所はあるものの公共交通機関を使った経験がなく一人で出掛けることができないなど。)

共生ホーム元気では、まだ自立生活をスタートさせた人はいませんが、定期的な体験を通して自立への準備を進める人がでてきています。しかし、共生ホーム元気を維持していくためには、もっと多くの人に利用してもらわなければいけません。

そこで、2015年度は、共生ホーム元気を拠点に、自立生活に向けた体験プログラムと、「そよ風のように街に出よう」を合言葉に障害者が街に出ていく取り組みを実施し、多くの人に利用してもらえるようにしていきます。

## (3) 収益性のある事業の確立

2014年度は、新事業の開始などにより職員の配置変更がありました。また、9月に開催された共同連全国大会では、前年度から引き続き実行委員会の事務局を担い準備をつづけ、無事に大会を終えることができました。

そのような中、売上を落とすことなく昨年と同額程度の売り上げを確保できるとの見通しとなっています。

また、2014年度は、カフェの売上が伸びてくるとの予想となっています。要因として、宵カフェや地域の縁側としての活動を地道に続けてきたことと、タウン誌などに掲載されたことがあると考えられます。また、カフェのスタッフも徐々に自信をつけてきたことも大きい要因と考えられます。今後、宵カフェでの食事の提供方法を踏まえ、ランチの提供の方法と配食サービスや惣菜販売について事業を展開できるよう検討を進めていきます。

障害者優先調達推進法を活用した営業も昨年度より継続しており、新規の取引先も徐々に増えてきています。2015年度は、より一層営業に力を入れ売上を伸ばしていきます。

ギフト商品の発売を始めて4年となります。注文数も徐々に増えているものの、ある程度、顧客が固まってきているように感じます。顧客満足度を上げることはもちろんですが、新たな顧客獲得に向け、さまざまな業者とのコラボでの企画を計画していきます。

#### (4) 30周年記念式典と応援団の再結成

2015年度、私たちくまもと障害者労働センターは設立30年を迎えます。障害当事者が始めた事業所は、たくさんの方々に支えられ活動を続けてきました。たくさんのお応援してくださった方々と30年を振り返り、今後の活動の方向性を演劇を通してみなさんにお示しできるような記念式典を計画していきます。

記念式典を通して、今後も引き続き応援していただくとともに、新たにたくさんの方々に私たちの活動を知っていただき、応援していただける方々を増やしていきたいと思っております。

以下、各事業の事業計画を報告いたします。

#### 【製造部】

##### ●ギフト売上目標 100万円 (今年度売上見込み90万円 11%増)

ギフトなどの製造品が増え、仕事量も増えつつあります。ただ仕事をこなすだけではなく、共に働き、共に地域で生きていく場である事を忘れず、一人ひとりが出来る事を積み上げてお客様が安心して食すことができるお菓子を作り上げていきます。

#### (1) 人気のある商品の定番化とイベントや季節に合わせた商品の開発

ギフトや注文時のみ製造していたフロランタンを定番商品化し、自社製品として定期的に製造販売をしていきます。

イベントや季節に合わせた商品を企画、製造することで、売上アップを目指します。

また、現行商品についても、季節に合わせた味の開発を行っていきます。

#### (2) 衛生面・備品等の見直しを行います。

現在、作業着は上着のみを着用しており、衛生的な事を考えズボンの着用についても検討していきます。また、上着や帽子についても、随時買い替え衛生面に注意をしていきます。

チェック表を作成し、製造する前に備品等の確認を行い、老朽化等による備品(異物)の混入防止に取り組みます。老朽化がみられる場合は、随時買い替えを行います。

#### (3) 他部署、他社との連携

例年通り、販売部との定例での会議を行い、お客様の声や反応を取り入れながら新商品や現行商品の改善を行っていきます。カフェでは、試食を提供することでコーヒー、自社製品のアピールをしていきます。今年度のギフトのチラシの作成が遅れることもあったので、早めに作成しやすいようにIT部と連携を取りながら取り組んでいきます。

お中元、お歳暮のギフトについては、他社とのコラボを検討し、顧客満足度と新規の顧客獲得をすすめていきます。

## 【販売部】

### ●売上目標 1,340万 (今年度見込み 1,240万円 8.0%増)

- ・訪問販売 1,030万円(今年度見込み 1,030万円 現状維持)
- ・トイレットペーパー 260万円(今年度見込み 170万円 50.0%増)
- ・委託販売 50万円(今年度見込み 40万円 25.0%増)

販売部では、毎月製造部とミーティングを行い、ギフト商品や新商品の開発に取り組むとともに、売上目標を設定し、売上の向上を図ってきました。関連のある研修会などにも積極的に参加することで、各々の販売に対するプロ意識も高まっています。また、定期的に販売できる場所の確保にも力を入れ、安定した収益も得られるようになってきました。

2013年度から障害者優先調達推進法を活用したトイレットペーパーの営業も継続しており、徐々に新規の取引先も増え、事業として定着してきました。

#### (1) トイレットペーパーの取引先の増加と定着

障害者優先調達推進法を活用したトイレットペーパーの営業を学校だけでなく、官公庁、病院等へ拡大し、契約件数を伸ばし売上アップへとつなげます。

#### (2) 接客力の向上

自らの仕事に誇りをもち、販売・営業のプロとしての意識を高めるため、研修会等に参加するだけでなく、内部でも年2回程度、接客の勉強会を行います。それにより、オリジナリティー溢れる、おれんじ村ならではの接客法を考えていきます。商品のPR方法(POP)についても、IT部と共に考え委託販売等でのアピールをしていきます。

#### (3) 夏場の売上UP

イベントでの実演販売と併せて事務所前での実演販売(かき氷など)について検討していきます。

## 【ORANGE CAFE】

### ●売上目標 250万 (今年度売上見込み 220万円、14.0%増)

2014年度は、メニューの固定化・安定した提供や役割の分担を継続して行うことで、スタッフも自信を持って仕事ができるようになってきました。

また、各種イベントや宵caféの継続、タウン誌への掲載もあり一般客の来店も以前より増加しました。

「一般客の集客」と「当事業所の活動を知って貰う場所づくり」を目標に地道に活動してきた成果が少し見えてきたと思います。

#### (1) ランチ提供方法の検討

宵カフェで培ったバイキングでの経験をいかし、ランチの提供方法(スーパバー・バイキング形式)を見直していきます。また、配食サービスや総菜販売など新たな事業展開を準備、検討していきます。

#### (2) イベント企画と集客力のアップ

プロジェクターの導入を行い、映画上映など新たなイベントを企画することで集客力のアップを目指していきます。また、現行イベントである手話教室や宵カフェの充実、会議や内部研修での利用を進めていきます。

また、他部署との連携をはかりながら、淹れたてのコーヒーと共に自社製品を中心に試食会や販売を店頭にておこなっていきます。

#### (3) メニュー料金と支出金の見直し

消費税が8%になった現在も、以前と変わらない料金でメニューを提供していますが、支出の増加が著しいため、料金や材料費などの見直しを行っていきます。

#### (4) 日曜日の営業

お客様、またメンバーからも日曜にゆっくり過ごす場所がなくカフェを営業してほしいとの要望があります。現在の部屋貸しの契約が8月までとなっていますので、9月開始を目標に、通常営業の準備をおこなっていきます。

### 【交流・イベント事業】

#### ●売上目標 260万円 (今年度売上見込み 200万円、30.0%増)

ここ数年、倉田が中心となり県内外の学校を中心に講演の依頼を受け、実施してきましたが、徐々に回数が減ってきています。長年、チラシを作成し営業活動を行うことを事業計画に掲げてきましたが、未実施のままとなっています。また、倉田以外の人材の育成も課題となっています。2014年度は、熊本市人権教育研究大会で自らの体験を発表し、その後学校での講演も経験することで、徐々に自信をつけているメンバーもでてきています。

2015年度は、チラシを作成し営業を行っていきます。また、個人での講演だけでなく、演劇として障害者問題を伝えて行くことができないか検討をしていきます。人材育成については、今後も継続して熊本市人権教育研究大会などにメンバーが発題者となって参加していきます。具体的には、本人の話を聞き取りながら、一つ一つ丁寧に言語化し、思いを引き出し発題に向け準備を進めていきます。

イベント販売については、今年度末より、イベントに合わせた商品や企画により、売上アップに取り組んできました。その結果、徐々にではありますが、売上にもつながっています。来年度は、イベントに合わせた商品を販売し、より一層売上アップにつなげていきます。また、新たに実演での販売についても検討していきます。

## 【IT部】

### ●売上目標 120万円 (今年度売上見込み 100万円 20%増)

労働センターの情報発信力アップと新たなソーシャルインクルージョンの試みとして、IT部が発足して3年経ちます。製造・販売でも・カフェでもない労働センターの新たな仕事の間として一定の定着を見たといえますが、4年目は、IT部の在り方も転換点としていかなければならないと考えています。

#### (1) 情報発信・人材育成の在り方 → アクティブ化&スキル移転

各部署のプロ化・独立性が高まっていく傾向にある今、IT部と各部署との連携が強まらなければ、内外への情報発信はできません。人材育成の面からも、IT部内にとどまっていたら、発信すべき情報も拾えません。IT部全員どれかの部署に一部入り、各部署からも直接情報発信が可能になるよう、事前の依頼やスキルの移転・広がりを図っていきます。

#### (2) 収益事業の見直し → 30周年記念誌・記念グッズ等、制作販売へ

IT部の収益事業としては、名刺とスポット受注があり、名刺を日常業務のベースとしています。共同連大会や秋祭り等々の試みを踏まえ、今年は全体として取り組む労働センター30周年記念事業企画の中に、収益と記録性・情報発信の見込める企画を提案していきます。With復刻と寄稿・資料による記念誌、またカレンダーで試みたような才能の芽を発掘し、コラボできるような記念グッズの配布&発売を企画していきます。

## 【おれんじ村Inc.】

2014年度より開始した相談支援事業ですが、約60名の方より計画相談の依頼を受けサービス等利用計画を作成しました。しかし、実際はもっと多くの方々より依頼を受けていましたが、不慣れなこともありお断りしなければいけない状況でした。

2015年度中に0.5名の増員を計画し、できるだけ多くの依頼に応えることができるようにしていきます。また、相談を受ける中で、地域で暮らす障害当事者、家族が抱える課題などを知ることができました。今後は、相談を受けるだけでなく、地域の課題を把握しながら、自ら事業を通し課題を解決していくことにも取り組んでいきます。

## 【共生ホーム元気】

障害者の住宅の確保と、自立生活の体験の場として始まった共生ホーム元気ですが、当初の予定通りとはいかず、なかなか自立生活を開始するまでには至っていません。しかしながら、定期的に体験を継続し、自立生活に向けての準備を進める人もいます。また、設備の問題で(スロープがない)利用したくても利用できない人もいます。しかし、このままでは共生ホーム元気を維持していくことができません。

2015年度は、より多くの人に共生ホーム元気を使ってもらう必要があります。試験的ではありますが、月に1～2回、共生ホーム元気を利用しながら、自立生活の体験プログラムと「そよ風のように街に出よう」を合言葉に障害者が街に出ていく取り組みを実施していきます。

具体的には、自立体験プログラムでは料理・洗濯・掃除・宿泊体験を数名のグループで実施していきます。街に出かける取り組みでは、長年地域で暮らしさまざまな街を旅してきた障害当事者を講師に迎え、その体験から街にでることの意味を考え、学んでいきます。そして、実際に公共交通機関を参加者自らで調べ出かけていきます。